



輝くエニジニア

発行所
山形県立寒河江工業
高等学校PTA
山形県寒河江市緑町148
電話(86)4278



今年の思い出

第71号
平成27年2月3日



今年度PTA会長を務めさせて頂いております和田一登と申します。

あつと言う間の一年間でしが、本来の職務を無事過ごす事が出来たのは学校関係者、PTA会員の方々の暖かいご支援ご協力を頂きまして、感謝しております。

さて今年度を振り返りますと、いろいろな学校行事・PTA活動行事がありました。まずは全校一丸で運営された大寒工祭ですが各科のイベントや生徒たちが企画した屋台なども賑わい、近隣の方々からも参加して頂き大変好評な寒工祭となりました。

また、寒河江市開催でもある神輿祭りに本校も出場させて頂きました。



PTA会長

和田 一登

「これまでを振り返り」

た。昨年は天候の崩れもあり本校で作成した完全体の神輿が、披露出来なかったのが大変残念な結果となりましたが、今年は、完全体での神輿を、寒河江市内外の方々へお披露目が出来て、より一層寒河江御祭の盛り上げに貢献出来た事も大成功だったと思っております。

また、第四三回村山地区高等学校PTA研修会が、今年度は県立左沢高等学校が担当高校となり、本校も参加・手伝い等をするため開催当日には、多数の各地区PTA関係者から参加して頂き、研修会も成功裏に終了する事が出来まし

た。その他のPTA活動として、地区親子ボランティア活動・地区懇談会やロボット相撲大会・サーベイコンテストの応援などがありました。

これらの活動には、生徒も真剣に参加し、先生方ももちろん保護者の方々、如いては一般の方々より大きな激励を頂いております。ただ残念な事ではあります。ただ残念な事は、生徒募集停止により長年歴史ある教育活動の縮小は、私としては大変に残念に思っております。しかし、残念だけでは前へ前進出来ませんので、これからを担う在校生・新入生の力を結集し、今より

も活気にあふれ、地域に開かれた寒河江工業高校、一人一人の個性を生かし、未来の各分野で活躍出来るスペシャリストに成りうる学校、生徒に成って頂きたいと思っております。

これには生徒・先生方のみならず保護者の方々、如いては近隣の方々の協力・ご支援があつて出来る事と思っております。私も、これまで以上、協力を惜しみなく続けていくつもりであります。

最後に、PTA関係の方々保護者のご協力・ご支援に深く感謝申し上げます。共、これからのPTA活動・学校行事にご協力よろしく願致します。

各専門部より

無我夢中

総務部部長 清野 憲隆

四月に荒木前部長より後継を引き継いでから、早いもので任期も残りあと僅かです。

総務部は「PTA活動全般の推進および他専門部との連携」等々の事業方針が示すように守備範囲が広く「何でもやらなければならない部署」の印象があります。その活動の中で「村山地区PTA研修会」への参加は、会員同士の交流と、自らの見識を深め、視野を広げるという点に於いて、とても有意義な活動のひとつと考へます。今年度は左沢高校が事務局となり、本校を含めた西村山地区の三校が地区協力校となつて開催されました。研究発表されたいずれの高校も「生徒が主役」の大原則に則つておられたのがとても印象的でした。勉強させていただきました。

今年度、無我夢中ながらもここまで何とか大過なく務められましたのは、ご指導いただきました先生方と、ご協力いただいた会員の皆様のおかげでございます。衷心より感謝の辞を捧げたいと存じます。

今年度を振り返って

育成部部長 斎藤 清司

今年度のPTA活動も残りわずかとなりました。

平成二十五年度の終り頃に突然育成部部長をと依頼の電話があり、自分にできるか心配でしたが関係各位の方々のご協力により活動が無事終え

卒業の時を迎えて

三年主任 渡邊 晃

東日本大震災の影響が残る2012年春に本校の門をくぐった入学生は、このたび無事、卒業の時を迎えました。これまで育ててこられた保護者の皆様のお喜びもひとしおかと存じます。誠にめでとうございます。

さて、私たち三年主任一同は生徒諸君の進路志望実現に向けて、誠心誠意一丸となつて励み、努めてまいりました。見事第一志望の夢を実現させた生徒がいた反面、夢叶わず進路変更を余儀なくされた生徒もいましたが、生徒諸君には、本校で培った「知

たことにお礼申し上げます。育成部活動としては、年二回の挨拶運動、各地区PTAによるボランティア活動があります。

六月のマナーアップ運動中の二日間と十月の寒工祭期間の一日に挨拶運動を行いました。生徒一人ひとりの元気な挨拶があり嬉しく思いました。もう一つの活動は、各地区PTA育成部と保護者によるボランティア活動です。寒工祭の時、各地区による活動風景の様子が写真やパネルで展示され、各地区毎に色々な活動が紹介されました。有難うございました。

最後に、担当の先生方、委員の皆様方そして保護者の皆様に御礼申し上げます。一年間の活動有難うございました。

一年間を振り返って

文教部部長 鈴木 洋一

力・「体力」そしてエンジニアとしての「技術力」をそれぞれの活躍の場でさらに伸ばしてほしいと願っています。本校は昨年度創立50年の節目を迎え、次代に向けた第一歩を踏み出しました。卒業する皆さんには、これからは同窓生として、後輩への強力な支援を期待したいと思っております。また、今年度その長い歴史に幕を下ろす土木科の諸君には、「最後の土木科卒業生」としての「誇りと自信」を胸に一層の活躍を期待したいと思います。

最後に、保護者の皆様の本学年に対する厚いご支援に御礼申し上げます。ともに、ご指導いただきましたすべての方々に感謝いたします。

平成二十六年年度のPTA活動も残りわずかとなりました。文教部では、寒工高PTA新聞「輝くエンジニア」の発行を今年度より、生徒減少に伴いこれまでの年二回より年一回の発行に致しました。平成二十七年には昭和四十年に開設した土木科が五十年の歴史に幕を閉じる事となります。伝統ある寒工高と光り輝く子供たちの様子をわかり易く、また親と子がコミュニケーションをはかれる新聞として、より一層多くの皆様にお伝えできればと活動して参りました。

最後に、PTA新聞作成にご協力頂きました皆様、担当の先生方に感謝申し上げます。三年間大変ありがとうございました。

保護者の皆様には、日ごろ本校の教育活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

今、教育においては、学校・家庭・地域の連携の大切さが頻りに言われております。例えば、携帯・スマホの使用法一つ考えても、ご家庭の協力が不可欠です。朝夕通学時の交通安全やボランティア活動などについても、地域の皆様のお力をお借りする場面が多く、学校・家庭・地域の連携の重要性は年々強まるばかりだと感じております。PTAは、この学校・家庭・地域の三者を包含した組織ですので、その活動如何によって、学校の教育活動の成否を左右するとも言っても過言ではないと思います。



校長

佐藤 俊一

皆で力を合わせて「輝くエンジニア」の育成を

本校では、伝統的に活発なPTA活動が行われており、特に、十一の地区PTA組織が親子ボランティア活動やPTA懇談会など独自の取り組みを行っていることは常々大変素晴らしいことだと思っております。それから、「御典の祭典」や学校祭などの行事においてPTAのご協力をいただいているのも本校の特長かと思えます。このように親も子も教師も力を合わせて活動していく中で、生徒たちは将来社会に出るに当たって必要な様々な力を身に付けていくのだと思います。

さて、学校の様子ですが、総じて欠席が少なく、生徒たちは真摯な姿勢で連日学習、部活動や生徒会活動に、そして行事に取り組んでおります。コンクリートカヌーやメカトロアイディアコンテストでの全国大会出場、陸上競技部、吹奏楽部、剣道部の東北大会出場を始め様々な分野で成果も上がっております。秋は行事が多くありましたが、その時々に見せる生徒たちの生き生きとした表情がとても印象的でした。二年生の修学旅行では、自主研修や集団活動を通して教室では得られない貴重な体験をし、多くの思い出をつくることができました。本校は、昨年度創立五十周年を迎え、今年度は次なる半世紀に向けて第一歩を踏み出す大切な年と考え、年と考えるべきです。「輝くエンジニア」の育成を使命とし、これまでの伝統を踏まえて、本校のいいところをさらに伸ばし、地域に根ざしながら、世界を展望できる工業高校にしていきたいと考えております。そのためにも、生徒と教職員が力を合わせ、地域の方々、そして何より保護者の皆様のお力添えを得ながら学校づくりをしていかねばと思います。土木科の閉科、そしてそれに伴う生徒数の減少など時代の荒波に揉まれることも少なからずありますが、関係者全員で力を合わせて歩みを進めてまいりたいと思っておりますので、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

総務部

平成二十六年年度

学校評価アンケート

総務部部長 佐々木 裕章

会員の皆様からアンケートにご協力頂きありがとうございます。

概要は、次の通りです。

○今年度は、真にいいはじめの項目を追加

○回収率は、保護者が九六・五％、職員が一〇〇％。

○前年度と比較して、②地区PTA関係のポイントが高く、④家庭学習の取り組みが低かった。他は大きな差はなかった。

今後、記述部分も含めて結果を分析し、来年度に活かしていきます。

①全体PTA関係(総会・レクリエーション等の取り組みはどうでしたか)

	5	4	3	2	1	未回答	平均値	前年比
保護者	59	102	188	2	0	5	3.8	0
教員	4	19	18	0	0	0	3.7	▼0.2

②地区PTA関係(地区懇談会・ボランティア等の取り組みはどうでしたか)

	5	4	3	2	1	未回答	平均値	前年比
保護者	78	112	158	4	0	2	3.8	△0.1
教員	7	21	13	0	0	0	3.9	0

③学習指導(授業・定期考査・課題等の取り組みはどうでしたか)

	5	4	3	2	1	未回答	平均値	前年比
保護者	45	109	173	20	0	3	3.5	0
教員	3	18	17	3	0	0	3.5	△0.1

④お子さんの家庭学習への取り組みはどうでしたか

	5	4	3	2	1	未回答	平均値	前年比
保護者	18	61	153	86	34	2	2.8	0
教員	1	4	16	15	5	0	2.5	0

⑤生徒指導(身だしなみ・交通安全等の取り組みはどうでしたか)

	5	4	3	2	1	未回答	平均値	前年比
保護者	53	107	180	7	4	3	3.6	▼0.1
教員	3	19	18	3	0	0	3.5	△0.2

⑥部活動指導はどうでしたか

	5	4	3	2	1	未回答	平均値	前年比
保護者	72	87	150	31	11	3	3.5	△0.2
教員	2	19	19	1	0	0	3.5	△0.1

⑦進路指導(就職・進学・公務員等の取り組みはどうでしたか)

	5	4	3	2	1	未回答	平均値	前年比
保護者	49	91	167	20	2	5	3.6	0
教員	5	24	10	2	0	0	3.8	0

⑧お子さんの進路活動への取り組みはどうでしたか

	5	4	3	2	1	未回答	平均値	前年比
保護者	39	82	167	34	7	4	3.4	0
教員	3	20	13	5	0	0	3.5	▼0.3

⑨保健活動(健康・安全・衛生等の取り組みはどうでしたか)

	5	4	3	2	1	未回答	平均値	前年比
保護者	43	87	194	6	0	4	3.6	0
教員	7	19	14	1	0	0	3.8	0

⑩個別指導・カウンセリング・特別支援教育等の取り組みはどうでしたか

	5	4	3	2	1	未回答	平均値	前年比
保護者	47	74	218	10	0	5	3.5	△0.1
教員	2	21	15	3	0	0	3.5	▼0.2

●設問に対する評価

- 5 満足(十分)
4 概ね満足(概ね十分)
3 普通
2 やや不満(やや不十分)
1 不満(不十分)



⑪各料(資格取得・ものづくり等の取り組みはどうでしたか)

	5	4	3	2	1	未回答	平均値	前年比
保護者	84	100	168	18	3	3	3.6	0
教員	6	25	10	0	0	0	3.9	0

⑫各学年・各クラスの取り組みはどうでしたか

	5	4	3	2	1	未回答	平均値	前年比
保護者	87	100	178	8	0	3	3.6	0
教員	2	17	21	1	0	0	3.5	▼0.1

⑬学校からの様々な情報提供はどうでしたか

	5	4	3	2	1	未回答	平均値	前年比
保護者	53	93	191	12	2	3	3.5	0
教員	2	16	23	0	0	0	3.5	0

⑭いじめの早期発見のための取り組みとその後の対応はどうでしたか

	5	4	3	2	1	未回答	平均値	前年比
保護者	64	81	195	7	0	7	3.6	—
教員	7	23	11	0	0	0	3.9	—

土木科の歴史と 閉科への思い

土木科科長 佐藤 司

本校創設から三年後の昭和四十一年に、国土開発の一環として東北地方開発促進法が制定されようとしている中、地域社会の強い要望とも重なり、土木科は新設されました。

「将来建設技術者として社会の中堅担い手となるための基礎的専門知識と技術革新の時代に相応しい応用能力を身につけ且つ教養のある人間の育成を目標とする」を掲げ、本校土木科は創生されました。他校に負けない強靱な精神力と高度な知識・技術を習得し、社会で活躍する土木科卒業生約一、八〇〇名による数々の活躍の歴史がスタートします。人々が生活する上で、なくてはならない社会基盤をつくる建設業は誇り高い仕事で、多くの卒業生が社会に大きく貢献しています。



しかし今から十五年程前、日本は大きな転機を迎え、公共事業の急激な削減が地方と建設業を直撃し、その影響が土木科にも及ぶことになり、今年度閉科を迎えることになってしまいました。建設業界の需要回復

人員不足により土木を学んできた者が必要とされている。今回の閉科に非常に残念な思いはあります。

今年、土木科最後となる生徒も、サーベイコンテスト水準測量準優勝、平板測量3位入賞など目覚ましい活躍を残してくれました。

ひさかたの

光のどけき 春の日に

静心なく 花の散るらむ

百人一首で有名な紀友則の歌で、日本の原風景ともいえる桜の美しさを詠んだこの歌を、つい土木科閉科の現状に重ねてしまっています。

五十年で歴史を閉じますが、心の根底に『土木科の誇り』を留め、これからも地域を支え続けていくことを信じていきたいと思っています。

これまで、多くの建設業関係者や地域の方々には大変お世話になりました。数多くの皆様より様々なご支援ご協力を頂きまして、心より感謝申し上げます。



生徒ひとり一人の 活躍の中で

生徒指導部長 菅谷 明浩

平成二十六年度も、保護者の皆様や地域の方々のご協力に支えられて、多くの行事を成功に終わらせることができました。六月にはボランティア活動として、中央工業団地の方々や町内会の方々とは生徒・教職員がグループを組み「若草の道」の植栽活動を行いました。いろいろな方々と協力しながらの作業は、私たちに与えて貴重な心の交流の場となりました。九月には「寒河江神輿の祭典」に、生徒会、神輿委員会を中心に、二年生全員と三年生有志、さらに教職員とPTA役員の方々も含め



全国高校ロボット競技大会 二年連続出場

工業研究部顧問 佐々木裕章

今年度は、機械科三年と工業研究部の二チームがアイデアロボット製作に挑戦した。競技内容は、三分間で「多くのペットボトルを回収して、相手コートのリングに投げ入れる」「一錠の缶詰を回収し、自立ロボットで運ぶ」などである。この難問に、放課後や休日にも登校して、何度も試作と実験を繰り返しながらロボットを組み上げていった。九月二十七日に羽黒高校で



参加しました。土木科三年石山委員長が全体をまとめ、また神輿会の方々にもご指導いただき、「チエリンちゃん」を乗せた本校神輿も、神輿まつりの夜に華を添えることができました。十月の学校祭は、天気にも恵まれ、一般公開日には多くの保護者の方々にも来場していただき、イベントや出店も大いに盛り上がりました。生徒一人一人の活躍が成功につながった二日間でした。



開催された県大会では、機械科三年が製作した「箱射手」が第三位に入り、二年連続全国大会出場を決めた。

続く、十一月八日に宮城県で開催された全国大会では、初戦敗退したが、生徒達は全国大会のレベルや熱気を体感できた。また、約半年間のロボット製作で、ものづくりの難しさや達成感などの貴重な体験ができたようであった。



変えてくれたもの

前生徒会長 深澤 龍観



私が寒河江工業高校に入學して、もう三年が経とう

としています。この三年間は、とても充実した学校生活だったと思います。

その学校生活の中で私に変化を与えてくれたのは、生徒会長として、皆の前に立ち、物事を進めたり、様々な行事に参加して、貴重な体験をしてきたからだだと思います。

私は、生徒会長に立候補するまでは、人前で話すという行為が得意ではありませんでした。しかし、生徒会長になったことで皆の前で話すことが増えたため、初めは全くと言っていい程、話せなかったのですが今は、大分スムーズに話すことができるようになりました。とても辛いことなども沢山ありましたが、この一年間、仲間達と頑張ってきた事は私にとって忘れることのできない大切な思い出になりました。

この一年間、生徒会の皆さんや先生方、仲間達に大変お世話になりました。生徒会活動で学んだことをこれからの生活に活かして生きたいと思っています。

我がまちのトピックス

「親子ボランティア活動」

西川地区会長

佐藤 実

西川地区のボランティア活動は、国道一一二号線の清掃活動を行っております。

国道一一二号線は、内陸地区と庄内地区を結ぶ大動脈として交通量も多く、それに伴ってゴミ捨てられるゴミも多くあります。

今年度は、朝の六時から、三班に分かれての活動を行い、活動中は沿道の皆様から「毎年ご苦労さま」の声をかけていただく場面もあり、活動の励みになりました。

集めたゴミはゴミ袋三つにもなり、通行するドライバーのマナー向上の必要性を痛感いたしました。

夕方には親子でバーベキューを楽しみ、学年を超えた地区の絆を深めました。

これからも、地区の皆さん



のために
なるボラ
ンティア
活動を続
けて生き
たいと思
います。

「ボランティア活動と
三年生激励会」

大江地区会長

菊地 勝

大江地区のボランティア活動は、毎年町内の保育園清掃を行っております。今年は、7月27日曜日に、さくら保育園の窓ガラス清掃並びにフーリング床のワックス掛けを行いました。真夏の暑い最中、多くの生徒と保護者に参加をいただき、ピカピカに仕上げてきました。この保育園にお世話になった生徒・保護者も多く、懐かしい遊具や保育室を、感謝しながら、清掃させていただきました。また、保育園よりアイスクリームやスイカの差し入れを頂戴し、後の三年生激励会でおいしくいただきました。

ボランティア活動後、場所を町の中央公民館に移し、三年生の就職・進学激励会を開催しました。三年生は将来の進路について、熱く語ってくれました。是非、第一希望に進んで欲しいものです。



充実した修学旅行

一学年主任 今田 廣幸

今年以下の内容で修学旅行を実施しました。

日程は十一月九日(日)～十二日(水)の三泊四日、研修地は奈良・京都・大阪です。研修地を選ぶ段階では国内の他の地域も検討しましたが、オーソドックスな物事はそれなりに意味があつて選ばれるとも考え、近年の本校の標準的なモデルを参考に計画を立てました。



希望していた飛行機が取れず、初日は午前五時集合、最終日は午後十一時解散という強行日程となりました。

また、出発時刻が早いので、初日は法隆寺・薬師寺・東大寺という奈良のビッグ・スリーを見学することができました。そして最終日、帰りの時刻が遅くなった分、USJ研修を六時間三〇分満喫することができました。今回の修学旅行の特徴は以下の通りです。三日目の班別研修において、朝の出発は京都の旅館ですが、夕方の集合

を大阪USJ隣接のホテルとしました。生徒たちの現場力を試す行程となりました。午前中は京都市内研修を義務付け、午後は京都市内でも大阪市内でも可ですが、移動は自力で京都駅、大阪駅、USJ駅を経由することになります。

初めての土地で、百十五名もの生徒が、迷うこともトラブルもなく集まってくれるかの不安がありました。各班に途中二回ずつの担任への電話連絡を求め、職員六名も京都グループと大阪グループに分かれ事故対応の態勢をとりました。案ずるより産むが易し。結果は良好。全員元気に集合し、生徒たちへの信頼を深めた次第です。



また、二日目はクラス別研修を行い、科毎の特徴ある内容を学習しました。内容の濃い四日間を経験して生徒たちは一層大人になったと思います。皆様のご協力に感謝申し上げます。



全員参加の生徒会

生徒会長 渡辺 海人



私は後期生徒会を務めさせていたたく機械科二年の渡辺海人です。よろしくお願いします。

私が生徒会長になろうと思ったきっかけは、これから生徒会を続けるか迷っていた時にいろいろな先生方や友達から「海人なら生徒会長ができる」と、後押しをしてもらったからです。

私が力を入れていきたいことは、規律のある学校づくりです。集会の際の五分前行動や整列など、先生が注意する前に生徒会常任委員で呼びかけていきたいと思っています。

また、遅刻なども無くなるように頑張っていきたいです。寒工祭やみこし祭りなどの学校行事では、生徒会だけでなく全校生徒が参加し生徒全員で作上げ、一人一人が楽しく、さらに地域の方々より深い交流ができればいいと思います。

これから一年間、寒工生がよりよい学校生活を送れるように、全力で生徒会活動に取り組みんでいきますので、よろしくお願いします。

全国大会を目指して

剣道部顧問 天野 吉貴

剣道部は、現在十三名で活動しています。活動を通して、正しい行いを学び、生きる力を養うことを目的とし、目標を高く互いに競争心を持ち、明るく活動しています。

今年度の県高校総体は、部員が一丸となり、団体で戦い抜くことができました。男子個人では、

結城瑠工がベスト4となり、東北大会へ出場しました。

さらに、卒業生と三年生の意志をつ

つ



進路指導部より

進路指導部部長 佐藤 繁樹

進路希望を実現された三年生の皆さん、進路達成おめでとうございます。今後、社会人としての活躍に大いに期待しています。

今年度の進路状況を報告いたします。三年の八月当初の進路希望状況として六割が就職希望で、その内の九割が自宅からの通勤を希望していました。結果、内定割合もほぼ同じとなりました。公務員関係は当初、十名程度が希望しておりましたが、結果、希望が叶ったのは五名程度で

なぎ挑んだ県新人大会では、男子団体準優勝となり、東北選抜大会団体初出場を果たしました。

これからの大会に向けて日々の生活を大切に行動していきます。多くの方々からたくさんのご支援とご協力をいただき感謝申し上げます。今後とも、応援よろしく願っています。

インターハイを目指して

陸上競技部顧問 梁瀬 誠

東北高校総体男子やり投に、機械科三年の富樫旺と機械科二年の布施守の二名が出場した。特に富樫が県総体で記録した自己ベストの57m08は、前年のインターハイ出場ラインを上回っており期待が大きかった。

進路については希望していた四割の生徒は、県立産業技術短期大学校への合格十二名をはじめ、ほとんどの生徒が推薦入試で合格内定となっています。

今年度を振り返ってみて、本校、土木科は今年度をもって閉科となるわけですが、六年後の東京オリンピックや太平洋側の復興工事、土木系公務員の応募者不足など昨年度を超える建設関係の求人があります。また、その他の全体求人数も多い年でした。しかし、昨年度以上の求人数の割には、一回目応募合格率が昨年並みという結果です。共

大会当日はコンディションも良好で、目標の60m超を目指し、いつも通りに楽しく投げたいと語っていた。しかし、上位者が60m越を連発するレベルの高さにプレッシャーを感じ、実力を発揮できずに残念な結果となった。

一方の布施は、初の東北大会出場で、大舞台での経験を次年度へ活かすことを目標としていた。自己記録の更新はできなかったものの、伸び伸びとした投げを見せた。



通した不合格理由はコミュニケーション能力・基礎学力不足です。先を見据えた社会人になるため、日々の生活の積み重ねの大切さを感じています。進路については、学生数減等により入試方法も多様化し、希望者にとっては希望の叶いやすい状況となっています。しかし、依然として人気のある進学先は、難易度が高くある一定の学力を必要とします。

今年度も多くの方々を支えられ、ほぼ順調な進路内定となりました。関係者の皆様には心より感謝申し上げます。

激となり、目標ともなっている。来年度こそインターハイ出場できるように、心身ともに充実させるよう指導にあたりたい。今後も、応援お願いいたします。

全日本マーチングコンテスト東北大会

吹奏楽部顧問 桃園 達也

今年度、本校吹奏楽部は山形県大会を経て、二年ぶりにマーチングコンテストの東北大会へ出場することができた。

佐々木良純先生指導のもと、マーチングとしては少人数の十人で挑戦することになった。演奏しながら動くことに大変苦労しながらも練習に励みできた。しかし、東北大会に参加する団体の迫力は比べ物にならないものであった。そして、大人数であつても一糸乱れぬ動きや演奏は見ると魅了し、力の差を痛感した大会となった。

結果、銅賞を受賞したが、一人ひとりが自分のミスを悔やんだ。しかし、この想いを忘れずに

日々の練習で己の技術や精神を更に磨いていくことを期待している。



一学年を振り返って

一学年主任 菊池 敏宏

この一年を振り返ってみると、4月の入学式ではまだ初々しさが残るフレッシュな新入生一一九名を迎えることができました。元気で明るいクラス、真面目で大人しいクラスと個性的な生徒達がそれぞれのクラスにいました。七月の体育祭では様々な種目を通じてクラスの団結力が高まりました。

二学期に入ると、マラソン大会のクラス対抗では一年生が二位から四位までに入り、どのクラスも頑張りが見えました。寒工祭ではクラス毎の取り組みに個性があり、より一層まとまりが良くなり、各部活動に一生懸命取り組んでいる生徒も多く、学年全体としても良い方向に向かっていくと思っています。

これからいよいよ二学期、一年の総決算の時期になります。一人一人が毎日の授業や家庭学習等に真剣に取り組む一一人全員が進級できるように頑張ってもらいたいと思っています。そのためには保護者の皆様のご理解とご協力が必要になると思いますので、よろしく願っています。